

# 国語科（現代文B①）学習指導案

一 対象 第二学年四組三十九名

二 日時 平成三十年七月五日（木曜日） 第一校時 八時四十分～九時二十分

三 場所 二年四組教室

四 単元名 評論（1）「この瞬間を歴史に刻む」金森修『精選 現代文B』（明治書院）

## 五 単元について

### (1) 単元の目標

- ・文章の構成を把握し、筆者の主張や本文の要旨を理解する。
- ・筆者の主張を自分に即して考え、より深く理解する。

### (2) 教材観

本教材は、筆者の専門である科学史を通して、歴史一般を学ぶ意義を述べたものである。文章の構成は、一般的な評論文の書き方とは異なり、具体例などを用いず筆者が述べたい内容をまとめているため、短いながらも抽象的で難解な印象を受ける。しかし、筆者の主張を読み解くことで、今ここに存在することの偶然性や、今この一瞬一瞬が歴史を作っているということを学ぶことができる。生徒にこの点を理解させることで、今や未来をどのように生きるか考えさせられる教材だと言える。

### (3) 生徒観

非常に活発でやる気のある生徒が多く、ペアワークや話し合いが総じて得意である。その一方で、漢字や語句といった読解力の基礎となる知識が定着していない生徒も散見される。また、キャリアプランニング（キャリア教育）の授業を通じて未来の自分は模索しているが、自身の過去を振り返っての内省は十分でないと考えられる。

### (4) 指導観

漢字や語彙の定着や伸長を図るために、第一時の前時に本教材を読解する為に必要な漢字と語句をプリントで学習させる。科学の事柄を述べている文章は抽象的なものが多いため、本文の内容理解においては、特に歴史一般を知る意義に焦点を当てて授業を行う。また、科学の事柄に触れる際は、授業者が適宜具体例を挙げて読み進めることで生徒の理解を促したい。本時では、自分の歴史年表を作成し、「今自分がここにこうして在ること」の歴史や、人生の目標を達成するためには今何をしなければならぬかを考えさせる。これによって、今ここに存在することの偶然性への気づきや、今この一瞬一瞬が歴史を作っているという発見に導きたい。また、最終制限では作成した年表をグループで発表することで、歴史を形作っているのは私たち全員であることを再確認し、自分の人生は自分にしか歩めなかったものであるという気づきに導きたい。

## 六 単元の評価規準

読む能力	国語への 関心・意欲・態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の構成を理解している。</li> <li>・筆者の主張を的確に理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に積極的な態度で臨んでいる。</li> <li>・目的を理解して自分の歴史を内省し、年表を作成している。</li> </ul>



言語についての知識・理解・技能	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出語句や新出漢字を理解している。</li> <li>・本教材の表現の特色を理解している。</li> </ul>	

七 単元の指導計画（全四時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちは何のために歴史を学ぶのか」という問いに対する意見を共有する。</li> <li>・一～五段落の内容理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習プリントを配布し、生徒にあらかじめ自分の意見を考えてきてもらう。</li> <li>・科学の段落と歴史の段落で述べられていることが対応していることに気づかせる。</li> <li>・筆者の問いとそれに対する答えを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語句の意味調べを事前に行っている。</li> <li>・文章の構成を理解している。</li> </ul>
二	<ul style="list-style-type: none"> <li>・六段落の内容理解</li> <li>・七～八段落の内容理解</li> <li>・九～十段落の内容理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者は誰に歴史の魅力を伝えたいのかを考えさせる。</li> <li>・筆者の主張を理解させる。</li> <li>・最も抽象的な文章であるため、適宜具体例を用いて理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張を理解している。</li> </ul>
三	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十一、十二段落の内容理解</li> <li>・自分の歴史年表を作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の気づきを理解させる。</li> <li>・「人生の目標のきつかけ」と「自分を変えた出来事」を、年表で表現させる。</li> <li>（言いたくないことは書かなくてよいと指示する）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張や気づきを理解している。</li> <li>・積極的に活動に臨んでいる。</li> </ul>
四	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表準備</li> <li>・五人グループで発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表事項を示す。</li> <li>・机間指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に活動に臨んでいる。</li> <li>・「今一瞬を定位する」とはどのようなことかを実感している。</li> </ul>

八 本時案 (第三時)

(1) 本時の目標

・今一瞬を定位してみよう。

(2) 本時の展開

まとめ 2分	(展開計 34分) 展開 3 10分	展開 2 13分	展開 1 11分	導入 4分	時
<p>・次回予告</p>	<p>・自分の歴史年表を作る。</p>	<p>・十二段落を音読する。 ・歴史は誰が作ったものかを思い出す。 ・今は誰が作っているのかを考える。 ・「いつの日か、われわれがいる今この瞬間が、歴史の重要な一断片になるかもしれない」とはどのようなことか考える。 ・現在を丁寧に生きるとはどのようなことか考える。</p>	<p>・西洋が行った思想的反省の内容を理解する。 ・日本が行うであろう思想的反省の内容を考える。 ・科学史的な思考とはなにか考える。</p>	<p>・ミニッツペーパーを返却する。 ・前時の復習 ・前時の気づきや疑問を共有。 ・本時の目標を確認する。 ・十一段落を音読する。</p>	<p>学習活動</p>
<p>・生徒が書いた年表を回収し、次回返却する旨を伝える。</p>	<p>・活動中は机間指導を行う。 ・目標を再確認し、本時を振り返る。 ・「人生の目標ときっかけ」、「自分を変えた出来事」を年表で表現させる。 (言いたくないことは書かなくてよいと指示する)</p>	<p>・七段落に記述している歴史を知る効果を思い出させる。 ・授業者の歴史年表で例を示す。 ・あなたが今ここにこうしてここに在る歴史を描かせる。 ・「人生の目標ときっかけ」、「自分を変えた出来事」を年表で表現させる。</p>	<p>・音読する前に、「思想的反省とは何をすることかを後で問う。」と予告する。 ・報告書「科学 終わりのないフロンティア」の紹介 ・ペアで抜き出した内容を確認させる。 ・七段落の内容を想起させる。</p>	<p>・前時のまとめで生徒が書いたミニッツペーパーを用いる。</p>	<p>指導上の留意点</p>
	<p>・積極的に活動している。 ・自分の歴史を内省し、年表を作成している。</p>	<p>・筆者の主張を理解している。</p>	<p>・七、八段落と、本段落の内容が対応していることを理解している。</p>	<p>・前時の内容を理解している。</p>	<p>評価規準</p>

一この瞬間を歴史に刻む

金森 修

目標、今一瞬を定位してみよう

科学

筆者：近未来の日本科学は

↓思想的反省をする、

・客観性のあり方の分析

・研究の意味が価値そのものへの

根本的な問い直し

何のために考える

科学史的な思考が必要

歴史

筆者の過去の人間全員が作った

① 一瞬一瞬が歴史ならば、

今われわれが生きている世界も歴史の一断片となる。

② 今この瞬間が未来に

つながっている。

③ 歴史を学ぶ

現状の分析

← 現在を丁寧に生きられる。

十 準備物

教師：教科書、ノート、自分の歴史年表プリント、授業者の歴史年表プリント、

前回のミニッツペーパー

生徒：教科書、ノート

# 自分の歴史年表を作ろう

( ) (組) (番号前) ( )

一、今あなたが考えている人生の中での最も大きな願いや目標は何ですか？

二、あなたの歴史を年表にしてみました。

ルール① 自分の人生を変えた出来事を年表に書き入れること。

(もし〇〇だったら今の自分はない。△△だったから今の自分がある。を考えよう)

ルール② 一で書いた願いや目標が生まれたきっかけを示すこと。

(きっかけの部分はきっかけと書いて示すこと)

